

平成20(2008)年度

熊本大学大学院法曹養成研究科

第1次選抜

(小論文試験問題)

試験時間 120分

頁・・・1～3

注意事項

1. 試験開始の合図のあるまで、この問題用紙は開かないこと。
2. 試験開始後、問題用紙(この表紙を含めて4枚)、解答用紙(3枚)、下書き用紙(3枚)がきちんとそろっているか確認すること。
3. 解答用紙のすべて(3枚)に受験番号を記入し、氏名は記入しないこと。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入し、ホッチキスは外さないこと。
5. 配布された解答用紙は持ち出しを禁ずる。
6. 試験終了後、問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ること。

課題文を読み、下記の問いに答えなさい。なお、法的知識を問うものではありません。

問 課題文 1 及び 2 において示された見解の違いを明らかにした上で、あなたの意見を 800 字以上 1200 字以内で述べなさい。なお、課題文において示された見解のうち、あなたの意見と異なる見解に対する批判も行うこと。

課題文 1

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません)

(出典：甲斐克則「人体およびヒト組織等の利用をめぐる生命倫理と刑事規制」湯沢雅彦・宇都木伸(編)『人の法と医の倫理』(信山社・2004年)所収481頁以下より抜粋。なお、見出し及び文章の一部を省略している。)

課題文 2

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません)

(出典：安部圭介・米村滋人「臓器移植と自己決定権 - ミュンヘン会議からの示唆」樋口範雄・土屋裕子(編)『生命倫理と法』(弘文堂・2005年)所収26頁以下より抜粋。なお、文章の一部を省略している。)